令和８年度 第２回 藤沢市地域福祉計画推進委員会
【議事要旨】

Ⅰ．開催概要

１．日　時　　２０２６年（令和８年）９月２日（水）午後２時００分～午後３時３０分

２．会　場　　藤沢市役所　本庁舎５階　５－１・５－２会議室

３．委　員

（１）出席者＝１５名

・会場出席者

平野　友康、石井　由佳、奥田　吉昭、長尾　敏明、吉田　展章
木村　依子、吉田　厚治、山口　燿子、橋本　良子、椎野　幸一
澁谷　晴子、樋口　敬子、松沢　邦芳、安室　康子、上岡　留美子

・欠席者＝５名

平郡　康江、竹川　由紀、小山　八千代、木幡　秀夫、津島　徹

４．議　題

１．開　会

（１）開会挨拶

２．議　題

（１）前回委員会の振り返り

【資料１－１】令和８年度第１回委員会の振り返り
【資料１－２】令和８年度第１回委員会の議事要旨
【資料１－３】（仮称）藤沢市地域福祉計画２０３２骨子

（２）（仮称）藤沢市地域福祉計画２０３２【素案】について

【資料２－１】（仮称）藤沢市地域福祉計画２０３２【素案】
【資料２－２】（仮称）藤沢市地域福祉計画２０３２【素案】説明資料
【資料２－３】意見シートとりまとめ結果一覧
【資料２－４】参考資料：意見シート全文

（３）パブリックコメントについて

【資料３】パブリックコメントについて

３．その他

（１）藤沢市重層的支援体制整備事業実施計画について

【資料４】（仮称）重層的支援体制整備事業実施計画２０３２素案

４．閉　会

Ⅱ．会議の概要（議事要旨）

１．開　会

事務局の開会挨拶の後、議事に入った。

２．議　題

（１）前回委員会の振り返り

≪資料１－１について事務局説明≫

～　質疑なし　～

（２）（仮称）藤沢市地域福祉計画２０３２【素案】について

≪資料２－２について事務局より説明≫

〇澁谷委員

資料 1－1 のスライド７で、計画の位置づけをとてもわかりやすく具体的に書いていただいた。この文面を、素案６ページの計画の位置づけと性格のところに全文を載せるのは難しいかもしれないが、例えば、「個別計画に委ねつつも、すべての施策が同じ方向を向いて進むための役割を果たします。」とか、「福祉分野に限らず防災、都市計画、保健・医療といった関連分野とも連携を図ります。」といったところを、素案の中にも書いていただくと、これはそういう計画なのだとわかりやすいのではないか。

〇松沢委員

今回の計画については名称の変更が示されているが、私どものこの委員会の名称も、地域共生社会推進委員会へと変えた方がいいのかなとも思った。市の組織名が、以前は地域共生社会推進室だったが、地域福祉推進課に変えている。当時、どういう経緯で担当課の名称を変えたのか、その時の議論を紹介してほしい。

〇事務局

地域共生社会推進室から地域福祉推進課に部署の名称を変えた理由としては、今までも藤沢型地域包括ケアの推進を進める中で、庁内の連携が図られてきたが、組織としては「室」よりも「課」の方が引き続き基本的な業務推進がしやすいと判断したと認識している。

計画の名称変更については、地域共生社会の実現が最終目標である点は変わらないが、「地域福祉計画」となると「福祉」にとらわれてしまうという懸念もあり、地域共生社会の実現には都市計画や防災団体など、複数の分野が一体となる必要があるため、そうした認識をわかりやすく示すのに「地域共生社会推進計画（地域福祉計画）」という形

で提示させていただいた。

○平野委員長
35 ページ以降の施策の展開というところで、関連している各個別計画の取組というところが更新予定となっているが、計画を策定した後は、この個別計画の進捗を確認しながら計画全体の進捗、方向性を確認していくというようなつくりになっている。現在、掲載については各個別計画の所管と調整中ということか。

○事務局
本日、構成案についてご承認をいただけたら、この計画の具体的な施策の中に入れる事業については、それぞれの個別計画を所管している庁内課に照会をかけ、報告があったものを掲げていくという流れになっている。

○澁谷委員
素案の 27 ページの市民の役割のところについて、前の素案では、こうしなければならない的な感じに読み取れるということを意見シートに書かせていただいたところ、今回の素案では、表現を柔らかくしていただいた。ただ、３行目の「お互いの暮らしやできごとに少し目を向けてみることが大切です。」の「少し」は柔らかすぎるので不要と感じた。

○平野委員長
先ずは、計画全体の構成について、この素案に承認をいただきたいと思うが、この方向性で進めてもよろしいか。

～　意見なし　～

（３）パブリックコメントについて
≪資料３について事務局より説明≫

○木村委員
こども・若者からの意見聴取というところで、早稲田大学の学生とのワークショップとある。なぜ、藤沢市内にキャンパスがある慶應大学でなく、早稲田大学なのか。

○事務局
早稲田大学の先生が善行地区でいろいろと活動をされている。その繋がりで、次期地域福祉計画のパブリックコメントについてこども・若者の意見がほしいと相談した際に、

先生から学生とのワークショップをご提案いただいた経緯がある。また、慶応大学については、学生向けの掲示板で周知を予定しているところである。

３　その他

（１）藤沢市重層的支援体制整備事業実施計画について

≪事務局より資料４について説明≫

≪椎野委員より「御所見だより」について説明≫

≪事務局より「おれんじキャンペーン」について説明≫

≪澁谷委員より「かたせ・ほっとカフェ」について説明≫

○椎野委員

こういういい冊子をつくって、こういう方針でやりますと伝えるだけでなく、その後の実施状況や成果まで市民に届ける必要があると思う。地域の縁側など、地域ではかなりの取組が行われており、 それらを単なる活動実績ではなく、「何をやった結果、どう変わったのか」という成果として把握することが大切だ。委員会で一生懸命にいい計画を作って、それで終わりではなく、事務局も、委員の皆さんも成果を楽しみにしなくてはいけない。隣の茅ヶ崎市では、施策によってこうなった、ああなったという結果が比較的見えるようになっている。藤沢市でも、事務局がもう少し成果を整理・管理して示してほしい。

○事務局

今、委員からいただいたご意見を地域福祉計画の改定に反映していき、次期計画では、施策ごとに実施している事業の成果・結果を把握することが重要であり、実施後に「何がどう変わったのか」を評価するＰＤＣＡのサイクルを回していく。また、その成果については、市民にも分かる形で広報等を通じて示していく必要があり、事務局としても、そこをきちんと取り組んでいきたい。

○椎野委員

市社協と地区社協は連携して活動することになっているのであれば、その活動の管理・運営についても、市社協がより主体的に関わる必要があるのではないか。地区社協が「これだけのことを実施し、その結果どうなったのか」という成果を市社協に報告する必要性がないから、各地区で活動の成果を把握・管理することは難しくなっている。市社協が地区社協の活動状況や成果を把握できる連携体制を整えてほしい。

○事務局

市社協には、地域福祉活動計画があり、今回の地域福祉計画を策定した翌年度にそちらの計画についても見直しを行うことになる。藤沢市には 13 地区あり、それぞれの地区社協において、ボランティア活動をはじめ、さまざまな地域福祉活動が行われている。各地区で毎年度の活動報告もしていると思うので、今後は、そういったところを市民の皆さんに分かりやすく伝えていくことが必要だと思う。

○樋口委員

市社協では、現在、第４次地域福祉活動計画の５年間について、各地区社協や関係団体の皆さんに、これまでの活動について振り返りをお願いしている。第４次地域福祉活動計画は、市の地域福祉計画に倣って基本目標や施策の方向性を同じものとして策定しており、今回は、地域で行われている活動が、計画のどの目標の実現につながっているのかを確認できるシートを作成し、各団体の活動を記入していただいている。対象は地域団体だけではなく、こども関係、保護司関係などさまざまな分野で活動されている方々にもお願いしている。これらを 10 月 28 日の第２回藤沢市支えあう地域づくり推進連絡会で取りまとめて共有する予定で、まとまれば、この地域福祉計画の計画推進委員会にも資料としてお示ししたいと考えている。

４　閉会